

銀漢亭日録



伊藤伊那男

3月27日(火)▼「萩句会」へ選句。発行所、中村湖童さんの「童夢句会」あと七人。小川洋さん。

28日(水)▼桜散り始める。店「雛句会」十二人。私の句稿、第二句集あと七分分を四、五百句位に絞り込む。これから精査。

29日(木)▼「Oh! 花見句会」の賞品の染筆。「本の街」へ句。同人評。「俳壇」寄稿文の校正など雑用をこなす。桜並木は落花の中。駅前の高桜がい。店「秋麗」の藤田直子主宰他七人、内、伊藤文明さんは伊那北高校の先輩。田田のりをさん、慶大時代の友人三人。安藤さんは伊那北高校の先輩。

30日(金)▼慶應茶道会先輩の八田さん四人。青柳飛さんロスから帰国。日経新聞丸田光一さん三人。丸田さんは伊那北高校後輩。月野ぼんさんの近所の育ち。「白熱句会」檜山哲彦、藤田直子、井上弘美、木暮陶句郎、佐怒賀正美さんいずれも私と同時に期に主宰になった仲間の三月月に一度の句会。発行所「金星句会」あと五人店へ。

31日(土)▼「信濃俳句通信」佐藤文子さんより創刊四百号への祝句依頼あり。「信濃の子まづ及第の通信簿」昼前入店し、仕込み。十三時半、恒例の「Oh! 花見句会」。Oh! 句会は、年四回あり、朽木直さんが幹事。直さんの綿密な連絡で超結社四十七名集合。店は俳人で溢れる。持ち寄り五句の句会あと、席題三句の句会。さすがに、人数多く、二回の句会で十九時過ぎ。

4月1日(日)▼快晴。もう葉桜に。十三時、中野サンプラザにて「春耕同人句会」。三月月振りに出席。終わってすぐ溝ノ口へ。孫の亮介君の参加するダンス教室「アイビーカーパニー」の公演へ。あと成城の牛角で家族で打上げ。

2日(月)▼群星集の選評を書いて五月号原稿終了。店、「かさぎ俳句勉強会」あと九人。ほか閑散。帰路、寝過ごし隣駅の駅まで、終電待ち三十分あり、タクシーを拾おうと外に出るが一台も無し。牛丼屋があつたので食べました。

3日(火)▼十五時、「俳句あるふあ」中島三紀編集長、カメラマンの武市さん、デザイナーの西郷さん来店し、連載の料理撮影会。五品ほど作る。あと試食会。広渡敬雄さん九州大学時代の仲間五人。発行所は事業部の

祐子、山田真砂年さん、「復興いわき」海の俳句全国大会の打ち合わせ。青柳飛さん明日、ロサンゼルス帰ると。
11日(水)▼京都のWさんから西ノ京の筍。別に、成城の仲間から、筍が来たが料理できないからと。何と、京かねの超高級品。店、阪西敦子さん他、句会の後の方々、三笠書房押鐘会長他。
12日(木)▼「極句会」あと十四人ほど。洋酔さんゲストで。
13日(金)▼橋野幸彦さん、友人と。若手の安里琉太君。あと超閑散。二十一時半に閉める。
14日(土)▼十時、運営委員会。十一時から北辰社取締役会。十三時、ひまわり館にて「銀漢亭本部句会」、五十六人。あと中華料理店にて親睦会。
15日(日)▼句稿まとめ、堀切克洋さんの句稿点検。十三時半、下北沢駅。杉阪、谷口さんと待ち合わせ。「下北沢ザ・スナリ」にて、田岡美也子さん出演の「妄想先生」を見る。あと杉阪さんに私の句集稿のチェックや意見貰う。あと田岡、谷口さんと合流し、酒宴二軒……。

16日(月)▼午前中、句集稿点検。地名句、自己類型の排除など四時間ほど集中する。店「演劇人句会」七人。閑散。
17日(火)▼堀切克洋君の句集稿点検。店、「天為俳句会」編集部の親睦会。六人。金融会社時代の堀川オーナーを囲む会。当時の財務部長の神村さん、旧長銀のKさん、旧興銀のKさん、旧三和銀行のWさん。オーナーには、四百億円出資して貰い、返せなかった……。江戸城天守を再建する会の秋山さん、森本さん(元三菱地所専務)、会の事務所が隣近所。

18日(水)▼藤森莊吉さん「関句会」例会七人。伊那北高校同期「三水会」六人。「大倉句会」の清水ドクター。山梨出身として、山梨市で開業していた伯父、加々美正彦のことを話したら知っている！と。
19日(木)▼伊東岬さん、畑で作った野菜沢山(のらばう、あさつき、キャベツ、あしたば)「銀漢亭句会」あと十七人。

20日(金)▼十二時半より品川のグランドプリンスホテル高輪の宴会場にて、大牧広先生の「港」創刊三十周年祝賀会。三百年近い大バーティー。十六時、店に戻る。発行所は「薦句会」あり、終わって六人店へ。環順子さん、十三人。結社「パティオ俳句会」創刊と。奥の席、吉野の桜を見に行った女性四人の十句出し句会。

21日(土)▼選室、大久保の俳人協会四階。第五十七回全国俳句大会事前投句の予選会。横澤放川、小島健、藤本美和子さん、昼、小島健さんと海老フライ定食。あと十六時まで選句。十八時、成城仲間のレマちゃん来て、お好み焼きバーティー。レマちゃんは大阪出身。ヘンケル日本代理店の令嬢。お好み焼きの伝授を受ける。

「銀漢俳句会京都吟行」運営打ち合わせ。あと店へ。日経新聞の丸田さん(伊那北後輩)、俳人協会事務局の方々。お花見の帰りとして能村研三理事長以下、七名ほどで寄つて下さる。

4日(水)▼「さざんざ句会」あと七人。「宙句会」あと十四人。バリ在住の伊藤恵子さん参加。店、ロサンゼルス在住の青柳飛さん。

5日(木)▼飯田眞理子、飯田子貢さんの句集稿第一回目の選句終わる。店「十六夜句会」あと十三人。皆川文弘さんと部下。全体閑散。帰路、今度「は登戸まで寝過す」。電車の遅れもあり、結局、小一時間のロス。トホホ……。

6日(金)▼「大倉句会」あと二十四人。佐怒賀正美「秋」主宰、佐怒賀直美「橘」主宰の兄弟。大王製紙、田中役員など。
7日(土)▼八時、新宿駅西口集合。志村昌さんの車で甲州へ向かう。もう一台は小野寺清人さんの車で計十二人。中央道釈迦堂サービスエリアで休憩し、釈迦堂遺跡博物館を見学。おびたしい発掘品。周辺は桃の花の中。南アルプスの残雪を眺望。十一時、境川村の山麓訪問。飯田秀實多恵子夫人の出迎えを受ける。蛇笥、龍太の書斎などを拝見したあと、取り寄せていただいたお弁当の昼食。奥様手製の野菜の天麩羅、田芹のおひたし。独活のマヨネーズ和えなどに感激！あと、秀實さん以後山を案内して戴く。丁度、今日から咲いたという山桜の巨木が見事。大樫の芽吹きも。十四時過ぎから俳諧堂をお借りして五句出し句会。白根三山が美し。十六時にお別れして、山中湖、志村さんのブティック社の山荘へ向かう。途中のスーパーマーケットにて食料調達。清人さん持参の海鞘、鮎のづけ、牡蠣の蒸し焼き。私のからすみ大根。鮎のアボカド和え、その他で宴会。ひと眠りして戻ると狂乱の宴会は続いている……。

8日(日)▼六時起き、快晴。目の前に富士山が！風呂。朝食は味噌汁、独活炒め。山廬の奥様が裏庭に丁度出たという筍を二本茹でて木の芽を添えて持たせて下さったものを煮る。ごみかえ……。というような豪華版朝食。九時、出句で十句出し句会。富士の裾野の山焼きがあるというので、見物に。山名湖を挟んだ絶景スポットから野焼きを遠望する。富安風生の「俳句の館」風生庵」も見学して山荘に戻り、焼きそばの昼食。野焼きの題で十句出し句会。十五時過ぎ、出発し、渋滞の中、十九時頃、新宿まで送つていただく。何とも充実した旅。

9日(月)▼山廬に礼状と賛助会費納入。店「伊那の放浪俳人井月現る」の今泉恂之介さん、北村皆雄監督。平沢さん、秋の信州伊那井月俳句大会の打ち合わせ。今年は今泉氏に講師を依頼。店、超閑散。

10日(火)▼「火の会」十二人。久々、齋藤朝比古、卓田謙一さん参加。山崎

22日(日)▼国領の竹林の筍の会だが、私は雑事多く、不参加。持ち寄り料理として鯛のカルパッチョ、蓮根のキンピラなど作り、娘に持たせる。莉子はスキー合宿へ。宮澤は日光の撮影。終日家。

23日(月)▼事業部「銀漢俳句会京都吟行」打ち合わせ。参加者六十人超。編集部五月号発送。店、池田のりを、小川洋、伊達さん(週刊金曜日)など。事業部の面々も。

24日(火)▼午前中、俳人協会。全国俳句大会の予選作業。松川洋酔さんの洋酔塾が句会として、新たに銀漢俳句会の「ひまわり句会」として発足。第一回目の句会あと店へ十一人。

2625日(水)▼店「雛句会」十三人。
26日(木)▼「俳句あるふあ」夏号へ「一句一菜」送る。今回の料理はアボカドと鮎のマヨネーズ和え、ガーリックスライスの茸ソースかけ。砂肝の黒胡椒炒め。店、法政大学高柳先生三人。一人は前にも来て下さったドミニカ共和国駐在大使の牧内博幸氏。外は閑散。

27日(金)▼店「炎環」の三輪初子さん、「ひよこ句会」一周年として石寒太主宰を招いての記念句会。九人。「金星句会」あと七人。
28日(土)▼ヘアメイクの中川さん来てくれてカット。日本橋「鮎の与志喜」にて「雛句会」十四人。堂島賊と独活の酢味噌和え。焼き蛤、桜蝦の天麩羅(今日の題)。イサキの塩焼、あと握り。酒は出羽桜の泉十段。夜、久々に家族で食事。ピーフステーキ。茹煮、若布と胡瓜の酢物。独活の皮のキンピラ、独活のマヨネーズ和え(山梨、飯田家の奥様が出してくれたものを思い出して)など。

29日(日)▼終日、句集稿整理。夕食、新玉葱のサラダ。鶏のニンニク醤油焼き。油揚げ焼など。
30日(月)▼振替休日。句稿整理。構成が難しい。午後、杏一家来てお好み焼きバーティー。莉子の高一の友人四人も前日から泊まりがけで来ており、大人数。加えてお好み焼きを伝授してくれたレマちゃんにもう一度、正確なレシピを教えてもらおうと声を掛けて一家で来て貰ったので結局十九人のバーティーとなる。

5月1日(火)▼店、休みとする。十一時、熱海駅に、唐沢静男、金井規児さんの出迎えを受け、唐沢家へ。一年振りの訪問。洋子さんも元氣、鮎、丸島賊などの刺身、魷、目刺、鰻などの干物くさや、育てた野菜などの料理をいただく。酒は「磯白慢」。途中、寝てしまふ。十八時頃に辞去。酔っぱらったがとかく帰宅。

31日(水)▼「大倉句会」あと二十四人。佐怒賀正美「秋」主宰、佐怒賀直美「橘」主宰の兄弟。大王製紙、田中役員など。
1日(土)▼八時、新宿駅西口集合。志村昌さんの車で甲州へ向かう。もう一台は小野寺清人さんの車で計十二人。中央道釈迦堂サービスエリアで休憩し、釈迦堂遺跡博物館を見学。おびたしい発掘品。周辺は桃の花の中。南アルプスの残雪を眺望。十一時、境川村の山麓訪問。飯田秀實多恵子夫人の出迎えを受ける。蛇笥、龍太の書斎などを拝見したあと、取り寄せていただいたお弁当の昼食。奥様手製の野菜の天麩羅、田芹のおひたし。独活のマヨネーズ和えなどに感激！あと、秀實さん以後山を案内して戴く。丁度、今日から咲いたという山桜の巨木が見事。大樫の芽吹きも。十四時過ぎから俳諧堂をお借りして五句出し句会。白根三山が美し。十六時にお別れして、山中湖、志村さんのブティック社の山荘へ向かう。途中のスーパーマーケットにて食料調達。清人さん持参の海鞘、鮎のづけ、牡蠣の蒸し焼き。私のからすみ大根。鮎のアボカド和え、その他で宴会。ひと眠りして戻ると狂乱の宴会は続いている……。

8日(日)▼六時起き、快晴。目の前に富士山が！風呂。朝食は味噌汁、独活炒め。山廬の奥様が裏庭に丁度出たという筍を二本茹でて木の芽を添えて持たせて下さったものを煮る。ごみかえ……。というような豪華版朝食。九時、出句で十句出し句会。富士の裾野の山焼きがあるというので、見物に。山名湖を挟んだ絶景スポットから野焼きを遠望する。富安風生の「俳句の館」風生庵」も見学して山荘に戻り、焼きそばの昼食。野焼きの題で十句出し句会。十五時過ぎ、出発し、渋滞の中、十九時頃、新宿まで送つていただく。何とも充実した旅。

9日(月)▼山廬に礼状と賛助会費納入。店「伊那の放浪俳人井月現る」の今泉恂之介さん、北村皆雄監督。平沢さん、秋の信州伊那井月俳句大会の打ち合わせ。今年は今泉氏に講師を依頼。店、超閑散。

10日(火)▼「火の会」十二人。久々、齋藤朝比古、卓田謙一さん参加。山崎